

卒業を祝って―時代と共に悩み続けよう―

帯広大谷短期大学学長 田中 厚一

まずもってこのような形で卒業生の皆さんを見送らなければならぬことを、大変残念に思っています。本来であれば、多くのご来賓や保護者の方々、同期の仲間たち、そして私も教職員と一緒にこの二年間を振り返り、旅立ちを共に喜び、そして決意を新たにす、そんな1日になるはずでした。しかしながら、新型コロナウイルスの流行を抑えるために私たちも苦渋の選択をさせていただきました。一生に一度の「ハレ」の日が実施されないことは極めて残念でなりません。しかし、皆さんは4月から様々な場所で責任のある仕事を任されるはずで、万が一のことを思うとやおを得ない選択だったと考えています。

さて入学して2年が経ち、4月から皆さんは新しい環境に旅立ちます。あつという間の時間だったと思います。楽しいことや辛いこと、時には苦しくて諦めそうになったことも何度もあったでしょう。そんな時、おそらく皆さんは勿論自分の力で乗り越えてきたこともあったでしょうが、やはり同じ目標を持った仲間たちの存在、支え続けてくれた保護者の皆さんのアドバイス、そして学科専攻など担当の先生たちの叱咤激励などによって、乗り越えてこられたのだと想像しています。大人として社会に出ていくためには、実は様々な他者との協力、協調がどうしても必要となってきます。実際に、皆さんは多くの授業や実習などで嫌と言うほど感じてきたのではないのでしょうか。

本学の「建学の精神」について理事長先生の1年前期での講義を、皆さんは受講されたと思います。また私もプレカレッジを始め、機会あるごとに話してきました。自他双方の「いのち」を大切にすること、その為には、つまりはどのように共生できる(共に生きる)社会を作るのか、これが次代を担う皆さんに与えられた大きな課題だということをこの2年間で理解できたのではと思っています。他者という存在は実はよく理解できないのです。しかも、もっと言えば自分自身でさえもよくわからないのです。そんな自分と他人がこの地域社会で一緒に協力して暮らしていくのです。だから、

共生するということが根本的に難しいのは当たり前なのです。しかし、人間は一人では生きていけません。どんな人でもしっかりコミュニケーションをとりつつ、豊かな地域社会を創出しなければなりません。皆さんがこの短大生活で学ぶべきは、実はこの点だったはずですよ。大事な資格のために努力し、夢であり目標だった仕事につけるよう頑張った皆さんだからこそ、私の書いている文章の意図を理解してくれているものと確信しています。一生の問題意識として「人と人とのつながりのありよう」について、ぜひ悩み続けてください。それが、皆さんの力になります。それが皆さんの生きる原点になるはず、です。

さて、今回の状況は前例のないことでした。皆さんは「運がない」、とか、「ついてない」などと、感じているかもしれません。無理もないでしょう。しかし、です。こんな時にこそ、その人の真価が問われてきます。

例えば私の生きてきた歴史で言えば、70年代、オイルショックでトイレットペーパーが買い占められた際の人びとの情けなさや浅ましき、バブルが崩壊し世の中が大騒ぎになった時、21世紀になる際、コンピュータ誤作動の可能性で世界中が震撼した時、阪神淡路大震災、東日本大震災や福島原子力発電所の問題、そしてつい最近では胆振を震源とした北海道全域に渡る大地震やそれに伴うブラックアウト、など多くの予想すらできなかったような出来事や災害が起きてきました。しかしその都度、その時代を生きてきた人間は、叡智の限り、気の遠くなるような努力を重ねて、未だに解決からは程遠いにせよ、未来を次の世代に託そうとしてきたのです。思えば、戦後の日本でもマイナスからの復興だったはずでしょう。ここに在るのは、たまたまその時代に生きていた人々の強い決意と覚悟だったに他なりません。私たちは血と汗に満ちた、そんな行為の上に今の幸せを享受しているのです。

だから、皆さんもこの時代の中で、これからをどう生きていくのか、どういう理想の社会を作り出していくのか、時代から問われているのだと思ってください。その時に自分が持つべき価値観を明確に持ってほしい、それは「自他と共にある」意義を説く「建学の精神」の願いそのものである、と私は感じているのです。

どうか、この卒業式を挙行できなかったことについて、後になって皆さんが「あれができなかったから、今の私がある」というような自信が湧いてくる、そういう生き方をしてください。

そのためには真剣に今この現状について考えていくことが、極めて重要になってくると思います。必ず終わりは来ます。それを信じて、皆さんはどうか前向きにこのやるせない出来事と向き合ってほしいと思っています。

最後になりますが、前途ある卒業生諸君のこれからの幸せを、帯広大谷短期大学教職員一同、心から願っています。

卒業、おめでとございます。心からお喜びを申し上げます。

2020年3月13日

